

入試分析 理科

【総評】難易度は例年並み。苦手分野を克服することが合格の条件だ！

今年出題された分野問題では「天気」「電気」「イオン」の3分野に苦手意識を持つ人が多く、苦手分野が克服できなかった受験生には厳しい内容だった。定期テスト対策で扱う基礎レベルから入試問題で扱う実戦レベルまで、**途切れなく積み重ねて苦手を克服するという意識を持って勉強してほしい。**

【問題分析】

1 小問集合 (4点×6問＝24点)

小問集合形式。物・化・生・地から基本的な知識を問われる。問4のように作図して解く問題も出題された。

2 レポート形式問題 (4点×4問＝16点)

生徒が取り組んだ自由研究の(レポート)の内容から問題をもとに解く問題が出題される。今年も例年の傾向通りで計算問題が2問出題された。

3 地学 (4点×4問＝16点)

「天気・地層・地震・天体」が出題されることが多く、この2年で「天気」→「地層」と出題されたため、今年は「地震」の出題が予想されたが、これに反して中2の「天気」の出題であった。来年は傾向からの出題予測はできない。満遍なく対策しておく必要がある。

4 生物 (4点×3問＝12点)

今年は中2の「消化・体の作りと働き」の出題。デンプンと唾液の実験から、(問1)実験からわかる唾液のはたらき、(問2)消化酵素の種類とその作用、(問3)血液の循環が出題された。実験操作や実験でわかることを復習しておく必要がある。

5 化学 (4点×4問＝16点)

今年は中3の「イオンと電池」の出題。例年、「酸化還元」や「電気分解・イオン」の出題頻度が高い。グラフの読み方や作り方を理解しておく必要がある。今年の問題では「イオン分野」の理解が不可欠だった。対策として(問4)に見られるようなイオンの数の変化を表すグラフに慣れておくことが大切だ。

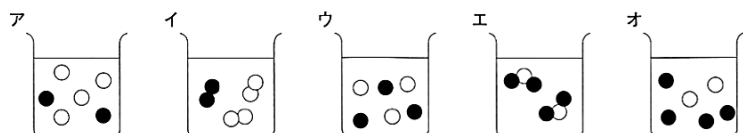
6 物理 (4点×4問＝16点)

今年は中2の「電気」の出題。「電気」は基本的な公式や法則を覚えていれば正解できる、確実に得点を上げなければならない分野である。

【出題例】 5 問1

〔問1〕 塩化銅が蒸留水に溶けて陽イオンと陰イオンに分かれた様子を表したモデルとして適切なものは、下のア～オのうちではどれか。

ただし、モデルの●は陽イオン1個、○は陰イオン1個とする。

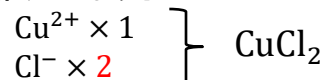


塩化銅の化学式はどっち？

① CuCl ② CuCl_2

Point !

たとえ化学式を忘れても、イオン式がわかれば解けてしまう！



入試に向けての学習アドバイス

中学全分野の基本となる用語・公式は中3秋までには完璧に覚えよう。また秋から入試問題を解くために夏のうちに問題をたくさん解いて実力をつけておこう。とにかく理科は覚えることが多い。法則や原理の理解・知識のゴロ合わせなど覚える量を最小限にする工夫をして、丸暗記はできる限り減らそう。